

心臓血管外科この一年

心臓血管外科医長 眞岸 克明

平成11年から4名体制で診療を行って参りましたが、医師不足の時代背景もあって、4月より3名体制となりました。一番の若手を失い、一気に平均年齢が高くなりました。診療体制の縮小と患者様の専門医志向などから、4月より呼吸器外科診療を休止する事といたしました。今後は、成人循環器外科に特化する事になりました。

診療

平成20年の手術件数は202例でしたが、心大血管手術症例は48例を数えました。夏までの手術件数は例年以上の伸びでしたが、後半は症例数が減速してしまいました。秋からは待望のICUが稼働しましたが、利用する機会が少なく、次年に期待をしたいと思います。

平成20年の特筆すべき事は、企業製ステントグラフトを大動脈瘤手術に使用できるようになった事です。約10年間、home madeのステントグラフトで診療を行って参りましたが、企業製を導入し、腹部大動脈瘤では28例中12例に適応しました。また、胸部大動脈瘤に対しても、企業製ステントグラフトを導入いたしました。手術症例は表に示しました。

学術活動

日常診療のほか、学術活動にも積極的に参加するように心がけております。全国学会では3題、地方会や研究会で10題を発表いたしました。いずれも心血管疾患関連の内容でありました。論文発表は、邦文誌2編でした。

1名減の影響もあり、応募演題を減らさざるを得ず、発表数は少なくなりましたが、その分内容を充実させる事につとめました。

おわりに

昨年は手術件数が減少いたしました。本年は手術件数の増加とさらなる成績の向上を目指し、この地域での心臓血管疾患患者様の医療サービスの向上を目指して参ります。適応制限はありますが、大動脈瘤に対する血管内治療も充実してきており、低侵襲な治療を積極的に進めて参ります。ハード面ではまだまだ不足がありますが、その分ソフトでカバーできるように、担当部署と連携を密に治療を進めていきます。看護スタッフをはじめ、臨床工学科、放射線技師、検査技師の皆様など多くの病院スタッフに支えられ初めて行える医療です。今年も、深夜や早朝の呼び出しの際にもよろしく願いいたします。

名寄市立総合病院心臓血管外科
平成20年手術症例

1. 心・大血管疾患	48例	
冠動脈疾患(単独)	22	
弁膜疾患(単独)	5	
弁置換+上行大動脈	1	
弁置換+冠動脈	4	
先天性心疾患	2	
心室中隔穿孔	1	
胸部大動脈疾患	13	
(冠動脈バイパス併施/腹部大動脈)	1/1)	
2. 末梢血管疾患	119例	
腹部大動脈瘤	28	
末梢動脈疾患	47	
下肢静脈瘤	23	
内シャント造設 修復	21	
3. 胸部, 肺疾患	8例	
肺 癌	3	
気 胸	3	
縦 隔	1	
その他	1	
4. その他	27例	
総数	202例	